

◆第1回卒業式

3月8日(土)に、第1回卒業式が挙行されました。



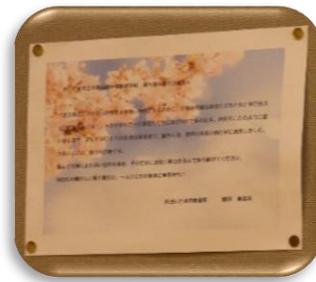
一期生である6年生は、5年生、保護者、来賓の方々、教職員からの温かな祝福の拍手と、吹奏楽CAの演奏する「主よ、人の望みの喜びよ」の音色に包まれながら、やや緊張した面持ちで中央通路を一步一步進み、静かに席に着きました。



国歌斉唱の後に行われた「卒業証書授与」では、旅立ちの時を迎えた生徒一人ひとりに対して、校長先生が心を込めて、直接卒業証書を手渡しました。



「校長式辞」では、校長先生が一旦は登壇したものの、その後フロアに降り、参加者と同じ目線で語りかけました。卒業生には進む道への希望と6年間で培った自信を、5年生には最上級生としての責任と自覚を、そして保護者と来賓の方々には、生徒を温かく支え、MOISの成長を共に見守ってくださったことへの深い感謝を述べました。



「教育委員会祝辞」では、竹居秀子教育長から、そして「来賓祝辞」では、清水勇人 さいたま市長から、それぞれMOISを旅立つ6年生に向けて心のコもったお祝いの言葉をいただきました。さらに「祝電披露」では、MOIS 創設に深く携わった細田真由美前教育長からの、温かな祝福のメッセージが紹介されました。

「送辞」では、在校生代表として生徒会長の龍田さんが、MOIS を築き上げた6年生の功績を称え、語り尽くせない感謝の思いを述べました。「答辞」では、卒業生代表の黒木さんが、6年間の MOIS での歩みを振り返り、支えてくださったすべての方々への感謝の気持ちを伝え、最後に、共に歩んだ仲間へ向けて未来へのエールを贈りました。

二人とも、MOIS の代表として堂々とした立ち振る舞いと深い思いを言葉にのせた、素晴らしいスピーチでした。以下に、「送辞」と「答辞」の要約を記載します。

「送辞」

私たちが先輩方と出会ったのは5年前、コロナ禍が明けたばかりの頃でした。不安の中、温かく迎えてくださり、何事にも真剣に向き合う姿は私たちの憧れでした。校則の改善や行事の仕組みづくりなど、MOIS の基礎を築いてくださった先輩方のおかげで、私たちはより良い学校生活を送ることができています。

初めての文化祭「大宮国祭」でも、多くの制約の中で知恵を絞り、創意工夫で成功に導いてくださいました。先輩方の資料は今も私たちの支えとなっています。私自身、先輩方の情熱に触れ、「MOIS や後輩のために頑張りたい」という思いが芽生え、生徒会長に立候補するきっかけとなりました。

先輩方の歌った「COSMOS」の歌声は心に深く響きました。共に過ごした時間と、憧れ続けた先輩方の背中には、私たちの誇りです。これから私たち在校生も、先輩方のように成長していきたいと決意しています。

六年間の経験が先輩方の未来を切り開く力となることを願い、ご健康とご活躍をお祈りして送辞といたします。



「答辞」



入学時、より良い世界を創るという使命は真っ白なキャンパスのようであり、6年間はその意味を模索する日々でした。コロナ禍では孤独や不安を経験し、学校の大切さに気づかされました。復帰後は、学びや課外活動に熱意を注ぎ、自分の興味を外の世界に広げることができました。試行錯誤を繰り返しながら、伝統を築く苦勞と達成感も知りました。進路に悩んだ時期もありましたが、仲間の励ましと共に、一歩ずつ自分の道を見つけることができました。

MOIS は個々の関心を伸ばせる場であり、私たちの学びの軌跡は「より良い」を目指す財産です。そして、未来は未完成でこそ価値があり、好奇心をもって未知を既知に変えることこそ、これからの私たちに課せられた使命です。

支えてくださった先生方、保護者の皆様には心からの感謝を。先生方の熱意とご指導は私たちの羅針盤となりました。保護者の皆様の支えがあったからこそ、ここまで来られました。

在校生の皆さん、今を大切に挑戦し続けてほしいと願います。MOIS は自ら機会を作り出せる場所です。

そして6年生のみんなへ。「新しい旅が待っています。自分の人生を自分で切り拓きましょう。私たちの可能性は無限です。それぞれの未来で、また会えることを楽しみにしています。愛と感謝を込めて——卒業おめでとう。」



全員で校歌を斉唱したあとは、いよいよ卒業生退場の時間。吹奏楽 CA による力強く美しい「旅立ちの日に」の演奏が響く中、卒業生たちはクラスごとに立ち上がり、後ろを振り返って「ありがとうございました」と、これまで支えてくれたすべての方々へ、感謝の思いを込めて深く一礼しました。晴れやかな顔で、あるいはこぼれる涙をぬぐいながら、一步一步を大切に踏みしめるように中央通路を歩く卒業生たち。その背中に、5年生、保護者、来賓の方々、教職員からの温かな拍手が絶えることなく贈られました。



6年生が本日、無事に世界へと旅立つ日を迎えられましたのも、時に厳しく、そして何よりも温かく MOIS を支えてくださった多くの方々のお力添えがあってこそです。これからも卒業生一人ひとりの成長を温かく見守っていただくとともに、本校への変わらぬご支援とご協力を、心よりお願い申し上げます。

◆予餞会

卒業式の前日、3月7日（金）には予餞会が行われました。コンセプトは「雲外蒼天」。久々の登校となった6年生を在校生が温かく出迎え、生徒会執行部を中心に、はなむけの会を行いました。



会ではまず、生徒会執行部による「一期生への愛と感謝」が、様々なエピソードを基に語られました。次いでこの日のために心を込めて準備した動画が上映され、6年間の数えきれない学校生活のシーンが映し出されました。



執行部からの祝福に応える形で、6年生有志によるダンスが披露されました。さらに、前日に急きょ決定した「COSMOS」の合唱も行われ、心を込めた歌声で感謝の気持ちを伝える姿はとても感動的でした。応える形で生徒会執行部からポップとクラッカーで盛大に祝福が送られると、会場全体が温かな拍手と笑顔に包まれました。



さらには在校生の有志合唱団が、大切な人の意味を込めた『ダーリン』を斉唱。次いで生徒、教職員全員が青い花を手につけて『群青』を歌い、エールを送りました。ここで終わりかと思いきや、一期生と共に歩んできた教職員がサプライズで登壇し『旅立ちの日に』を披露。2番からは生徒と教職員全員が大合唱となり、会場は大きな一体感と感動に包まれました。



式の締めくくりには、MOIS SHOP より感謝の気持ちを込めた記念品のマグカップが、6年生一人ひとりに贈られました。そして在校生が作った花道を通して退場する6年生を、最後まで温かな拍手と笑顔が見送っていました。

◆大宮国祭

3月14日(金)～15日(土)に、第3回大宮国祭が開催されました。今年のテーマは「理想郷(ユートピア)」。さらには各学年にテーマが定められています。

1年生は「おとぎ話の世界 or エンタメの世界」体育館ステージ上を使い、劇などの発表を行いました。

2年生は「ミライの世界 or エンタメの世界」SDGsを通して想像する未来について、創作物で表現しました。

3年生は「ゲームの世界」新たな時代のコミュニケーションになり得るゲームという媒体を用いてユートピアを表現しました。

4年生は「芸術の世界」今年度、自分たちの芸術選択授業で学んだことを融合させ、アトラクションを作成しました。

5年生は「ユートピア」制限は設けず、MOISの5年間で得た自由で奇想天外な考えで、様々な工夫を凝らしていました。

以上のテーマを基に、どの学年、クラスも愛に満ち溢れた、MOISにしかできない革命的な展示・発表を行っていました。

第1回だった一昨年度、そして昨年度に比べ、今年度は企画や運営、テーマや創作物など、年々パワーアップしていたと思います。これも授業など日々の探究学習で培った計画性や創造性、コミュニケーションスキルをいかに発揮できたからだと思っています。当日参加いただいた保護者の皆様、ご来校くださった地域の皆様、ありがとうございました！



準備



開催当日





◆修了式・全校集会・離任式

今年度の最終登校日となった3月24日(月)、約800名の生徒が体育館に集い、修了式、全校集会が行われました。修了式では、校長先生の講話や校歌斉唱に、生徒一人ひとりが真剣な表情で臨み、締めくくりにはふさわしい姿を見せてくれました。

また、4年生全員がMYP認定を受け、代表生徒に認定証が授与されました。最高学年となる5年生は、いよいよ進路決定と卒業を控える大切な一年を迎えます。MYPを修了した4年生にとっては、3つのコースに分かれ、それぞれが自分の将来をより明確に見据えながら過ごす一年となります。また3年生は、義務教育を終えて後期課程生となり、これまで以上に責任と自覚を持って行動していくことが求められます。2年生・1年生は、4月に入学してくる新入生の先輩として、さらなる飛躍と成長が期待されます。それぞれの学年や年次によって目標や役割は異なりますが、この節目を大切に、新たなチャレンジに向かう心構えを整えてほしいと思います。

全校集会では、学業・スポーツ・文化活動など、さまざまな分野で優れた成果を収めた多くの生徒が表彰されました。また大宮国祭に関する表彰も行われ、環境意識や創意工夫を評価する「エコ賞」には7クラスが選ばれました。そして今年度の「大宮国祭大賞」には、クラス一丸となって取り組んだ成果と創造性が高く評価された4年2組が輝きました。クラス代表として壇上に上がる姿はとても誇らしく、会場からは大きな拍手が送られました。仲間の活躍を称える姿勢が自然と広がり、MOIS全体の絆と成長を感じさせる、温かいひとときとなりました。

最後に、離任式が行われました。離任される先生方のお名前が紹介されると、会場からは驚きや寂しさの声があがり、あらためて先生方が生徒たちにとって大きな存在であったことを感じました。式の最後には、日頃の感謝の気持ちを込めて、生徒代表から花束が手渡され、温かな雰囲気になりました。

離任される先生方の新たなご活躍を、心よりお祈り申し上げます。

離任される先生方 ※氏名(教科等)

関田 晃 校長先生	沼尾 悠 教頭先生	武石 涼 先生(数学)
沖田 丈尚 先生(数学)	佐々木 優介先生(国語)	田村 守行 先生(理科)
人見 暖 先生(数学)	富田 英雄 先生(理科)	作田 悠太郎先生(理科)
水口 幸雄 先生(理科)	草野 凌平 先生(技術)	高山 香織 先生(英語)
山中 伶真 先生(英語)	小幡 駿介 先生(社会)	亀田 春樹 先生(社会)
大河内 雪乃先生(国語)	川上 寛太 先生(数学)	浅生 陸 先生(数学)
三島木 陽子先生(家庭)	金子 京子 先生(家庭)	王 碩 先生(中国語)
新井 昌子 先生(SA)	森井 真弓 先生(SA)	



当日は新生徒会役員任命式、現生徒会役員最後の挨拶も行われました。



離任式での花束贈呈。お礼の言葉に感極まって、生徒と抱き合う先生もいました。

The Graduating Class of 2025 and the Next Six Years of MOIS

IB コーディネーター: Brad Semans

In April of 2018, a small team of teachers setup in the teachers' room of Omiya Nishi High School to start work on opening MOIS. Guided by the philosophy mandated by the city council and board of education, the teachers thought hard on how to create a school that would truly prepare students for an uncertain future. Over the course of more than 20 school presentations, students and their families listened to talks about the 100-year life, the importance of Grit and Growth mindsets, and the Global agency that would be developed through IB education.

In April of 2019, 160 students and their families made the leap of faith to be the first class of MOIS. Their six years were marked by agency and choice. "What club activities will we have?" "You decide." "What should I write in my report?" "You decide." "What should the school rules be like?" "You decide." Each year, a new class of students came in and both followed the model set by their upperclassmen and challenged that standard. The graduation of the first class marks a major turning point in the story of MOIS but has made many teachers and students remaining here in the school that MOIS is a cycle and not a straight line with no return.

The leader of the MOIS Fes planning committee told the student body that he was inspired by last year's leader who asked that the next class make an even better event. Not only did the new leaders achieve that goal but showed that the spirit of working hard to make things better for others to come is alive in MOIS.

The faculty are all excited to close this school year with reflection of all the great things that the school has accomplished, and anticipation for the school year to come.

2018年4月、大宮西高校の職員室において、MOIS 開校に向けて小さな教師チームが立ち上がりました。市議会や教育委員会の理念に導かれながら、教師たちは「不確実な未来に本当に備えられる学校をいかにして創るか」について真剣に考え続けました。人生100年時代の生き方、やり抜く力 (GRIT) と成長マインドセットの大切さ、そして IB 教育を通して育まれるグローバルな主体性について、20回を超える学校説明会で、生徒の皆さんやそのご家族にお伝えしてきました。

2019年4月、160名の生徒の皆さんとご家族が、MOIS の第一期生として大きな一歩を踏み出してくださいました。その6年間は、まさに「主体性」と「選択」の連続であったと言えます。

「どんな部活動を作るのか？」—「それは皆さんが決めてください。」

「レポートには何を書くべきか？」—「それも皆さんが決めてください。」

「校則はどうあるべきか？」—「それも皆さん次第です。」

こうして、毎年新しい生徒たちが入学し、先輩たちが作り上げたモデルを引き継ぎながらも、自らの手で新たな挑戦を続けてくださいました。そして、このたび第一期生の卒業は、MOIS にとって大きな転換点であると同時に、この学校が「一方通行ではなく、循環していくもの」であることを、教師や在校生に強く感じさせる機会となりました。

MOIS フェスの企画委員長は、全校生徒に向けて、「昨年のリーダーが『次の代は、さらに素晴らしいイベントをつくってほしい』と語っていたことに感銘を受けた」と話してくれました。そして新たなリーダーたちは、その思いをしっかりと引き継ぎ、さらなる高みを目指して挑戦し、「次に続く人のためにより良くしていこうと努力する精神」が MOIS に生き続けていることを示してくれました。

教職員一同、今年度を締めくくるにあたり、これまで学校が成し遂げてきた数々の素晴らしい成果を振り返りながら、来たる新しい年度への期待に胸を膨らませております。

◆各学年より

1年生 「さらなる成長を目指して」

1年生担当：山田 寛之

1年生にとって初めての「大宮国祭」が開催されました。40名でひとつのことを成し遂げるには大変なことも多かったようです。それぞれのクラスで、ステージ発表の企画から、脚本作り、配役決め、大道具小道具作り、限られた場所での練習まで自分たちで考え、本番を迎えました。だからこそ最終日には大きな達成感と充実感を得られたようでした。大宮国祭を経て、生徒一人一人が大きく成長できたと思います。

入学してから1年間、大変お世話になりました。保護者の皆様の温かいご支援があり、生徒たちは充実した学校生活を送ることができました。

春休み明けからは2年生となり、新1年生が後輩として入学します。新入生のお手本となる2年生として、様々な場面で活躍する姿を楽しみにしています。



1年1組



1年2組



1年3組



1年4組

2年生 「中堅学年にむけて」

2年生担当：小木 皓平

先日、本年度最後の行事である「大宮国祭」が開催されました。思うように進まないこともありましたが、力を合わせて無事に終わることができました。保護者の皆様におかれましても様々な面でのご協力ありがとうございました。企画の準備段階では、企画リーダーやHR委員が中心となって声を掛け合い、それぞれが自分にできることに精一杯取り組んでいました。多くの生徒が限りある資源のなかで、どんな工夫をしてお客さんを楽しませるか真剣に考えながら、楽しそうに活動していました。互いにコミュニケーションを取ることや創造的思考力を働かせることは、まさしくMOISの学習活動で日々養っている力です。そんな力を十分に発揮して、達成感を味わうことができた「大宮国祭」は、大成功といえると思います。

4月からは中堅学年になります。これまで学んだことや、蓄えた力を存分に発揮してMOISを牽引していく姿が見られることを楽しみにしています。本年度も本校の教育活動にご協力いただきありがとうございました。



3年生「新たな世界に旅立つような気持ちで」

3年生担当：山下 紘輝

先日、本年度最後の行事である大宮国祭が無事に開催されました。各HRが工夫を凝らした企画を作り上げており、とても感銘を受けました。また、大宮国祭全体の運営では、3年生が精力的に活動をしている姿がとても印象的でした。MOISの中核を担う存在に近づくような頼もしさを実感させられる良い機会にもなりました。

学年レクでは「卒業パーティー」と題して、教員生徒含めて学年全体を囲んで「旅立ちの日に」を合唱しました。もちろん卒業するわけではありませんが、前期課程の区切りとして、ここに至るまでの成長や進歩を振り返る機会となりました。

後期課程に進級することで、いままで以上に責任が伴ったり立ちはだかるハードルの高さを痛感したりすることもあると思います。副主任からは、「初心の謙虚な気持ちを忘れずに学校生活を過ごしてほしい」とありました。これまでのMOISの活動のなかで大いに成長したことを糧にしながら、後期課程での学校生活がよりよいものになるように願っております。

今年度も本校の教育活動にご理解・ご協力を賜りましたこと感謝申し上げます。来年度もご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

集合写真



大宮国祭の様子



最後の給食



4年生「5年生へ向けて」

4年生担当：川西 輝

先日の大宮国祭では、4年生の力が大いに発揮された舞台となりました。周りが興味をひくような魅力ある企画力、限られた時間・予算の中でどのように企画を実現するか問われた団結力、より良い企画になるように考える探究力、そして来場者の方々に楽しんで頂くためのホスピタリティが試されましたが、どのクラスも、教員団の期待をはるかに上回るクオリティでした。また、有志としての活動、自分の得意分野を生かした出し物や、自分の3Gに関係する出し物を行っている4年生の活躍も多く見る事ができました。準備段階から「自分たちの力“だけ”でやりきる」という姿勢が強く感じられた取り組みだったのも印象的でした。どのクラスも壁にぶつかり、課題解決のために話し合いを重ねていました。決して諦めることをせず、みんなで協働する姿を見ることができました。まさに成長を感じさせてくれるものでした。中には、授業で培ったスキルを生かして、出し物を構成しているクラスもあり、普段の学習活動を活かしての大宮国祭にはとても意義を感じられました。

いよいよ MYP を修了し、最上級生に向けての最後の準備の年次に入ります。今回の大宮国祭が一年間の集大成だったように思えます。先日、年次でも今年1年間の振り返りを行いました。どの生徒も4月からの成長を自分なりに捉えることができていました。来年度に向けて、さらに頼もしい姿が見られることを楽しみにしています。

今年度、様々な面で本校の教育活動にご理解・ご協力を賜りましたこと、感謝申し上げます。来年度も引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。



5年生「二期生らしく最高年次へ」

5年生担当:戸所 良介

早いもので、5年生もおわり本校での学校生活も残すところ1年となりました。時間の流れは本当に早いものです。先日一期生が卒業して、最高学年としておかえた大宮国祭では準備から当日の運営まで、後輩に良き手本を示しても活躍してくれたと思います。この1年間を通して、生徒の成長の場面に多く立ち会うことができました。私個人としては二期生とは、4年生のときから担任・授業担当として携わってきましたが、前記のような成果にあらわれたものから、日々の生活中でのほんの些細な変化までその度合いは様々ですが、一人ひとりの成長に感動しています。最高学年、そしてその先の将来を見据えて、確実に良い準備ができています。次年度はこの「5年生らしさ」を生かして、それぞれにとって最高の結果をつかみ、本校の伝統を構築して行ってほしいです。ご家庭におかれましても、この1年、学年の指導にご理解ご協力いただき、ありがとうございました。次年度もよろしくお願いいたします。



6年生の進路説明
会と校長講話が先
日行われました。



6年生「自創」

学年主任:齋藤 優気

本校初の卒業式が、厳粛かつ温かい雰囲気の中で執り行われました。壇上で卒業証書を受け取る卒業生の姿は、6年間の確かな成長と4月から始まる新たな生活への希望に満ち溢れていました。本校の「一期生」として、常に前例のない道を切り拓いてきた皆さん。臨機応変な対応や粘り強い行動が求められる場面が多々あったことかと思います。「他律から自律へ、自律から自立へ、そして自走へ」という言葉を皆さんにも常に意識してもらいました。「一期生」の宿命とも言える状況の中、仲間と手を取り合い、主体性を持って粘り強く困難を乗り越えていく姿は、まさに「自走」のフェーズに到達していたと言えます。「自走」の先にあるのは「自創」です。これからは、自らを創り上げ、新しい世界を創る担い手として、大小に関わらず「世界のどこかを支える存在」として尽力してください。新しいトライには常に孤独感がつきまといます。その時に感じる孤独感は、自らの感覚の範疇を決して超えることはありません。MOIS で出会った素晴らしい仲間が常につながっていることを決して忘れないでください。保護者の皆様、守らなければならないと誓ったあの日から今日までの日々は、本当にあっという間だったのではないのでしょうか。これからは、誰かを温かく守れる存在として力強く成長していくお子様の姿を、変わることをない優しい眼差しで見守っていただければ幸いです。「一期生」の皆さんの未来が、幸せに満ち溢れたものとなることを心より願っています。



予餞会では、6年生は前日急遽決まったにも関わらず素晴らしい「COSMOS」を披露してくれました。在校生からの「群青」を2階ギャラリーから聴き惚れていました。

卒業式後最後のホームルームでは有志が作成した6年間の動画を見ながら思い出に浸っていました。